

## 第2章 計画の策定にあたって

### 1. 計画策定の目的

私たちのまち豊岡は、神鍋高原、来日岳、床尾山などの緑あふれる山、円山川、竹野川などの豊かな川、竹野浜、気比の浜などの美しい海岸といったすばらしい自然に恵まれています。

自然は時には姿を変えて災害を引き起こし、人々を苦しめますが、私たちは自然と折り合いをつけながら、農業、林業や漁業を営み、かつ、柳行李やちりめんをはじめとする産業を興し、暮らしを築き上げてきました。

また、そのような自然・文化環境の中で、多様な動植物に支えられ、食物連鎖の頂点に立つコウノトリやオオサンショウウオも、悠然と暮らしていました。

しかし、高度経済成長に伴う環境破壊、生活様式の変化などにより、山は荒れ、川は汚れ、生きものは数を減らし、豊岡を日本で最後の生息地としていたコウノトリも、昭和46年に空から姿を消してしまいました。

コウノトリは、長く粘り強い取り組みに

円山川河川敷から自然放鳥(平成18年9月)



よってよみがえり、平成17年に最初の5羽が再び豊岡の空にはばたきました。絶滅と復活の歴史に接してきた私たちは、この取り組みによって、多くのことを知りました。そして、人とコウノトリが共に生きることができる環境、つまりコウノトリの生息を支える豊かな自然とコウノトリを暮らしの中に受け入れる文化こそが、人にとってすばらしい環境であるとの確信を得るに至ったのです。

私たちは、コウノトリの野生復帰をシン

ボルとしてすばらしい環境を広げ、将来の世代につないでいくことを決意し、この条例を制定する。

(豊岡市コウノトリと共に生きるまちづくりのための環境基本条例前文より)

豊岡市環境基本計画は、このような認識のもと、コウノトリの野生復帰をシンボルとしてすばらしい環境を広げ、将来の世代につないでいくために、目標とすべきいくつかの姿を設定し、実現への道すじを示すことを目的として策定するものです。



## 2. 計画の位置づけ

この計画は、「豊岡市総合計画」で示されたまちの将来像『コウノトリ悠然と舞うふるさと』を、環境の面から実現しようとするものです。

このため、豊岡市において展開されるすべての取組みが、環境に配慮したものとなるよう促します。

豊岡市  
コウノトリと共に生きる  
まちづくりのための  
環境基本条例

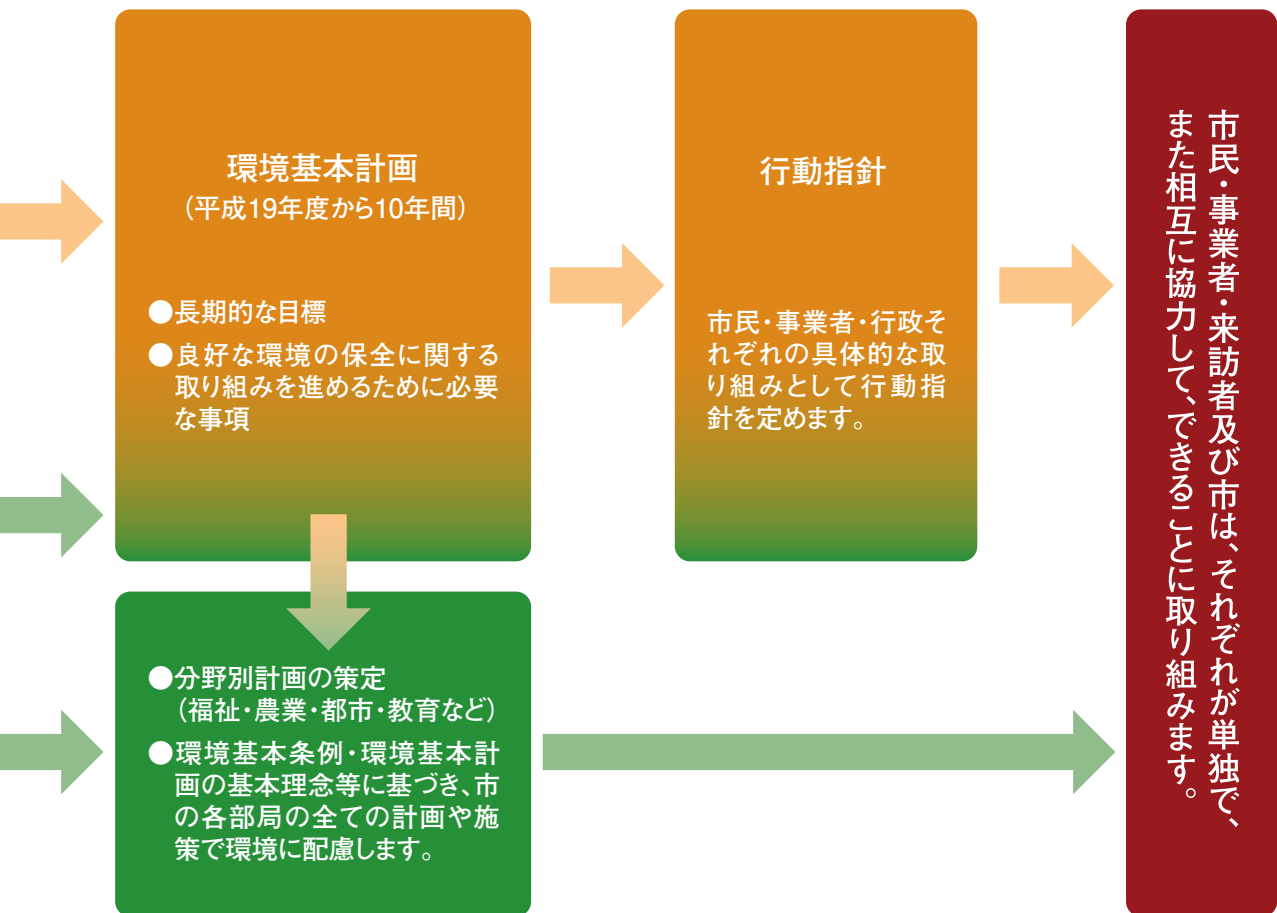
豊岡市総合計画  
(基本構想)  
まちの将来像  
「コウノトリ悠然と舞うふるさと」

## 3. 計画の期間

計画の期間は、平成19年度から平成28年度までとします。ただし、今後の科学技術の進展や社会情勢等の変化などにより、必要に応じ計画を見直します。

平成19年度  
(2007年度)

環境基本計画の計画期間





# 第3章 計画の基本的な考え方

## 1. 基本理念

この計画を進めるにあたって、基本となる考え方は次のとおりです。

### 基本理念

①豊岡に住み、豊岡を訪れるすべての者が当たり前のこととして、人とコウノトリが共に生きるまちにふさわしい行動をとります。

私たちのまちは、人々が自然と折り合いをつけながらおだやかに暮らすことを目指しています。資源を「もったいない」と控えめに使い、自然の摂理に逆らうと「ばちがあたる」という気持ちで、日々を楽しく過ごすことが当たり前のこととして行動します。

竹野浜



玄武洞



たんとうチューリップ祭



②良好な環境は先人から受け継いだものであることを認識し、次の世代に引き継ぎます。

いまある環境は、長い年月をかけて先人が築いてきたものです。いまを生きる私たちも受け継いだ財産を大切に、「ちょっとでも」より良い環境を保全しながら、子どもや孫、さらにはその次の世代までつないでいきます。

③地域ごとに異なる環境に応じ、地域の個性を生かして取り組みます。

地域ごとに異なる地形、自然、風土、生業は、地域それぞれが誇りうる宝物です。お互いを認め合いながら「つながり」、みんなで「心地よい」まちづくりを進めます。



城崎温泉



出石の城下町



神鍋高原



## 2. 基本方針

基本理念をもとに、みんなで取り組みを進めるための基本方針を次のように設定します。

# 01 自然的資源、文化的資源及び歴史的資源に関する理解を深めることにより、それらを良好な状態で保全します。

先人たちは豊岡の自然に抱かれて、自然と折り合いをつけながら暮らし、地域独自の文化や歴史を創り、私たちに引き継ぎました。

私たちは先人の脈々とした営みに感謝し、受け継いだ自然、文化、歴史の資源を学び、そしてそれを現在の生活に活かしながら、次代に良好な状態で引き継ぐという未来への責任を果たします。



神鍋高原



杞柳細工を学ぶ(豊岡小学校)



芝居小屋の復原(出石の永楽館)

## 02 良好な自然環境を保存、再生及び創造することにより、人と生きものが将来にわたってバランスよく共生するまちづくりを推進します。

生きものが、従来は生活していなかった場所で生きるとは、その生きものと人とのあつれきを起こしたり、生態系を乱すこととなります。すでに豊岡でも、有害鳥獣や外来種などの問題が発生しています。

また、そのような場所で生きることにより、その生きもの自体の生息にも悪影響を与えるおそれがあります。

生きものがそれぞれの本来の場所で、適正な数で生きられるよう、バランスのよい生態系を保全し、人間と様々な生きものが折り合いをつけて生きていきます。



(仮称)ハチゴロウの戸島湿地

## 03 市民、事業者及び市が連携して資源の無駄遣いをなくし、循環型のまちづくりを推進します。

資源には、一度使えばなくなってしまうもの、形を変えて再び利用できるもの、いくら使ってもなくなるものがあります。

一度使えばなくなる資源である化石燃料などは、ちょっとでも使用を減らします。使った後でも形を変えて再利用できる紙などは、確実にリサイクルし、新たな資源の使用を減らします。いくら使ってもなくなる太陽光などの利用はさらに増やします。

このような利用によって、日々の暮らしを楽しみながら、資源を次代に引き継ぐという未来への責任を果たします。



空き缶・ペットボトル回収機



# 04 子どもたちに環境の大切さを伝えるとともに、市民及び事業者の環境に関する意識を高めることにより、環境にやさしい人づくりを推進します。

人が生きていくうえで、どうしても環境に負荷をかけてしまうことがあります。しかし、もったいない、ばちがあたるなどの先人から引き継いだ意識を持っていれば、その負荷はかなり減らすことができ、自然と折り合いをつけて生きていくことができ

ます。

年齢や立場に合わせ、環境に対してそれぞれが取り組めることを学ぶことにより、環境への意識を高め、その意識に基づいた行動をとります。



竹野川でのゴミ拾い

# 05 環境を保全する活動と経済活動の共鳴を図ることにより、良好な環境を保全する活動を持続的に推進します。

環境を保全する活動を心意気、頑張りや公的団体の支援だけに頼っていても、長続きさせることは困難です。

私たちは、環境を良くする活動によって経済効果が生まれ、経済効果が生まれるからさらに環境を良くする活動をしようという、環境と経済が共鳴しあう仕組みを経済活動のあらゆる分野でつくり、環境を良くする活動がずっと続いていくようにします。



市内スーパーで「コウノトリの舞」農産物を販売

# 06 それ以外でも環境の保全のために必要な取り組みを推進することにより、地球環境の保全に貢献します。

宇宙から地球を見るような視点で、地球温暖化などの地球規模の環境問題を考えると、環境のことを考えずに化石燃料などを浪費している様々な行動が目につき、絶望的な気持ちになるかもしれません。

しかし、私たちが自信を持って、ちょっとずつの取り組みをすすめることで効果があがると、それが地球規模で関心と呼び、大きな取り組みにつながっていくことも考えられます。

すばらしい環境に恵まれたこの地域に生きているという誇りを持って、日々の暮らしを楽しみながら、地球環境という大きなテーマにも視野を広げて、取り組みを進めます。



打ち水大作戦

### ■基本方針(第3章)

基本理念をもとに、みんなで取り組みを進めるための基本方針です。

- 1 自然・文化・歴史的資源の理解と保全
- 2 人と生きものがバランスよく共生するまちづくり
- 3 資源の無駄遣いをなくす循環型のまちづくり
- 4 環境意識を高める環境にやさしい人づくり
- 5 環境行動を持続的にする取り組み
- 6 地球環境の保全に貢献



### ■目標とする姿(第1章)

長期的な視点のもと、みんなで取り組みを進めて10年後に到達すべき目標像です。

- 1 里山では山の幸もよみがえりました
- 2 遊んでいる田んぼを見かけなくなりました
- 3 あちこちの川で子どもたちが遊んでいます
- 4 ごみのない海辺では、子どもたちが「磯遊び」を楽しんでいます
- 5 子どもたちが地域の祭りや行事を楽しんでいます
- 6 コウノトリがすべての中学校校区に住んでいます
- 7 収集されるごみの量は、ピーク時に比べ 25%減りました
- 8 子どもが安心して道草をしながら帰ります
- 9 たくさんの豊岡ブランドが生まれ、市民みんなが使っています
- 10 市民みんなが、省エネ行動を楽しみながら取り組んでいます

私たちは、次の6つの合言葉をいつも気にしながら行動します。

「もったいない」「ちょっとでも」「ばちが当たる」  
「心地よい」「つなぐ」「自信・誇り」

### ■基本理念(第3章) この計画を進めるにあたって、基本的な考え方は次のとおりです。

- ①豊岡に住み、豊岡を訪れるすべての者が当たり前のこととして、人とコウノトリが共に生きるまちにふさわしい行動をとります。
- ②良好な環境は先人から受け継いだものであることを認識し、次の世代に引き継ぎます。
- ③地域ごとに異なる環境に応じ、地域の個性を生かして取り組みます。



## ■取り組みの方向(第4章)

(44~57頁)

「目標とする姿」を実現するため、市民・事業者と市が、みんなで協力して取り組みを進めていく方向を示します。

- 1 森林を保全し、活用します
- 2 川や海などの水辺環境を保全します
- 3 農業を将来にわたって維持します
- 4 生きものがバランス良く息する自然環境を保全します
- 5 地域の文化や景観を保存し、活用します
- 6 ごみの減量・再資源化を進めます
- 7 地域力を高めます
- 8 地域から学ぶ学習・教育を進めます
- 9 環境意識を高めます
- 10 環境に関する知の集積を図ります
- 11 地産地消を進めます
- 12 環境と経済の共鳴を進めます
- 13 省エネルギーに努め、新エネルギーの利用を図ります
- 14 公害を防止します(大気汚染、騒音、悪臭、振動、土壌汚染、光害など)

## ■市民・事業者・市のそれぞれの取り組み

市民、事業者、市のそれぞれの具体的な取り組みを行動指針として示します。

- 1.市民(来訪者)の取り組み  
(60~62頁)
- 2.事業者の取り組み  
(63~65頁)
- 3.市の取り組み  
(66~76頁)

### 【来訪者に求めること】

来訪者にも豊岡に滞在中は、市民等と同様に、環境を良くするための行動を求めます。

※取り組みの方向に掲げたひとつひとつの課題に関して、市民・事業者と市が連携して、みんなで取り組みます。例えば「地元の木を使った家、ものづくり」では、

